

2025年9月25日(木)

2392号 (毎月25日発行) (大阪版)

1950年12月16日第三種郵便物認可

1部160円 月額470円 (郵送料込月額120円)

平和新聞

発行 日本平和委員会

〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館

電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277

大阪版編集 大阪平和委員会

〒542-0012 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第三ビル210号

電話 06(6765)2840 FAX 06(6765)2837

E-mail: osk-heiwa@able.ocn.ne.jp http://www.osk-heiwa.org

戦後被爆80年夏の企画

「天王寺動物園で

平和を考える」

平野区平和委員会

今夏、天王寺動物園での企画展「戦時中の動物園」見学に取り組み、10人が参加されました。ガイドは大阪の戦争遺跡研究家の森田敏彦さんです。

「何十年ぶりやろ、エライ変わったな」と言いながら、有名なチンパンジー夫婦「リタとロイドの像」前に。大戦中、軍服を着せられ、賢い芸が戦意高揚のために利用されました。リタは栄養不足から死産、翌日に亡くなりました。次に、空襲時に危険だと殺処分された26頭の動物たちの一部はく製や展示のある部屋へ。最後に動物慰霊塔の前で記念写真。森田氏は「動物たちはなぜ殺されたか」について、早めに動物を殺すことで、国民に覚悟を持たせるショック療法として動物の命を利用したのではと述べられていました。平和であれば、餓死、毒殺、射殺などなかったのに。必死に命令に抵抗した園長や飼育係員の悲しみははかり知れません。動物園で平和といのちを実感をもって学ぶことができました。

山本 陽子

「はだしのゲン」上映会に34名参加

自分の言葉で「戦争あかん」を言い続けよう

生野区平和委員

8月24日(日) 13時30分から生野区民センターで、アニメ「はだしのゲン」映画会を開き、34名の参加、感想交流をしました。当日はカンパ六千円と、入会が2名あり、核兵器禁止条約批准を求める署名も集まりました。感想交流では次のような感想が寄せられました。

▼「はだしのゲン」はじめてみました。終戦の時は9歳で満州にいました。



原爆のこともその時は知りませんでした。今も外国で戦争がおこっている。戦争だけは絶対あかん。やめさせないと▼7月、参議院選挙で参政党が伸びた。いま若い人は8月6日も9日も15日も何の日か知らない。私たちの時代は核兵器も9条も、憲法も大切な物として教育され、身近なものと思ってきた、また戦争への道に進むのではないかと、とても心配。若い人に知ってもらうにはどうしたらよいのか考えていきたい。

▼東京大空襲、広島、長崎のことを姑さんからよく聞いた。頭に焼き付いている。繰り返してはいけない。

▼9月5日、新婦人で広島の高校生が描いた原爆絵展を開きます。多くの人に見てもらいたい。

▼子供のころ、マンガ「はだしのゲン」を10巻、いつきに読んだ。とても怖かった。世界中で戦争がおこっている。繰り返させてはいけない。

▼今年の世界大会広島も長崎でも、若い人たちにこの運動が広がっていることが実感できた。



沖縄連帯行動

9月16日13名で実施



終戦記念日の9月16日、上本町6丁目交差点で、正午から沖縄連帯行動の宣伝を行いました。うたごえ協議会の立川さん、平和遺族会の大島さん、大阪平和委員会の大井さんが、「戦後80年たった今も沖縄は米軍基地の島とされ、県民の命と平和が脅かされている」「完成の見込みのない辺野古新基地建設は直ちに中止」「基地強化、ミサイル配備ではなく、対話での平和を」と訴えました。「お米とミサイルどっちが大事」のパネルが公表でした。9筆の署名の協力がありました。



第22回

アメリカ領事館前行動

アメリカはイスラエルの支援をやめろ! パレスチナに平和を!

8月28日 21人参加

8月28日、22回目となるアメリカ領事館前で抗議行動を大阪労連、大阪革新懇、大阪原水協、大阪平和委員会4団体で行いました。参加者は21人でした。食料や医薬品が届けられず餓死で300人以上が亡くなり、ひどくなるイスラエルのジェノサイドに「アメリカはイスラエルの支援を止めてガザへの攻撃をやめさせろ」「必要なのは人道支援」「パレスチナの国家承認をしろ」と抗議のコールを行いました。





平和への意識がより深まった 原水爆禁止世界大会・長崎に参加した青年の感想です(一部抜粋)

オンラインのいのち

長崎での3日間、被爆者の体験や平和の集いを通してたくさん考えさせられました。谷口さんの「ノーモア ヒロシマ、ナガサキ、ヒバクシヤ」というスピーチは短いきれど強い言葉で心に残りまして、高草木さんが話していた「被爆者は軍国主義と原爆の二重の犠牲者」という指摘にはハッとさせられました。今道さんが語っていた「オンラインワンのいのち」という言葉も重みがあり、いのちを大事にし、人権を守ることが当たり前になれば戦争はなくなるはずだと改めて思いました。

また、差別や偏見の話を書いて胸が痛くなったし、だからこそ「違うんだよ」と伝えていくことが大切だと感じました。海外の平和活動家のお話も印象的で、軍事費の実態に人々が驚きや怒りを示すこと、日本と同じように平和を願う仲間が世界中にいることに勇気をもらいました。原爆資料館では外国人の被爆証言も多く紹介されていて、日本人だけでなく多くの人々が苦しんだことを忘れてはいけな

な力になる。そう感じたから、自分もできることをコツコツと続けていきたいです。八尾平和委員会 田中綾恵



市民一人ひとりの行動が平和への具体的な力

今回の各国代表者の発言を聞き、核兵器廃絶と平和のための国際的な連帯の重要性を改めて強く感じました。

特に、エジプトのモハメド・アブデルモネム元外務次官がガザの犠牲者に黙とうを捧げつつ「人類生存の危機が増大している」と警鐘を鳴らした言葉には心を動かされました。戦争によって命を脅かされている人々が、広島・長崎の被爆のことに思いを寄せてくれているという事実から、国際連帯の大切さを強く実感しました。私たちも各国と共に団結し、世界の平和のために声を上げ、行動するべ

きだと強く思いました。

また、核兵器廃絶に積極的な立場を示すメキシコのメルバ・プリーア駐日大使の発言にも大きな心強さを感じました。核保有国に責任を果たすよう求め、核兵器禁止条約やトラテロルコ条約に基づく取り組みを積極的に推進する姿勢は希望を与えてくれます。

そのうえで、大使が「市民社会が力強く支えていることに深い信頼を寄せている」と語ったことで、市民一人ひとりの行動や活動が平和への具体的な力となることを実感し、私自身もより積極的に関わりたいと励まされました。さらに、全国の高校生平和ゼミナールの報告では、愛知の高校生が「被爆者の声を直接聞ける最後の世代として、これから先は私たちが次の世代につないでいく役割を担う」と前向きに語った言葉に深く心を打たれました。

「最後の世代」という言葉をポジティブに捉えている姿に驚き、自分の考えも少し甘かったと気づかされました。高校生たちが学び、行動し、被爆の実相や平和の思いを次の世代に伝えていく責任を自覚する姿勢は、私にとっても大きな刺激となり、平和への意識をより深めるきっかけとなりました。

八尾平和委員会 成海鉄雄

東田協直さん、ありがとう

ありがとう

大阪平和委員会が長く、常任理事を務められた東田協直さんが8月18日ご逝去されました。ご冥福をお祈りしたいと思います。

東田さんを偲んで

私と東田さんの出会いは、1970年の暮れ。鶴橋駅近くにあった「大阪平和を守る会」の事務所でした。当時は、ベトナム戦争反対

の声が高まり、「能勢ナイキ基地」阻止の闘いも進められていました。そして翌1971年には黒田革新府政が誕生し、まさに「平和を守る会」に集まる青年たちの活動が最も活発だった時期でした。その1971年、東田さん(野村製作所)と私(帝産)など十数名で「青年協議会」を結成しました。

活動の中心はやはりベトナム反戦でしたが、能勢町に計画された「ナイキ基地建設反対」の闘いも大きな柱でした。能勢町天王地区の建設予定地を調査するために、熊笹をかき分けて山頂まで登ったこと。村々を一軒一軒まわり、「反対署名」をお願いしたこと。あの日々は今でも鮮明に覚えています。

さらに東田さんたちは、運動を大阪市内に広げる工夫をされました。能勢町民の協力を得て臼や杵を借り、「能勢もち」をつき、販売する活動を始めたのです。



今も「能勢もち」が販売されているのを見ると、当時の思いが受け継がれているように感じます。私は1973年に職場が変わり、平和を守る会青年協議会の活動からは離れました。しかし2019年、久しぶりに東田さんと再会。それまで半世紀ものあいだ、理事として平和委員会を支え続けてこられたことを思うと、本当に頭が下がる思いでした。東田さん、本当にありがとうございました。黒田 安彦



2025年
日本平和大会
in愛知10/25-26

申し込みは
大阪平和委員会まで

【10月の行事案内】

- 1日(水)第4回常任理事会 18:00~
- 4日(土)平和大会国際シンポジウム 14:00~
- 6日(月)6.9行動 12:00~上本町6丁目
- 15日(水)沖縄連帯行動 12:00~上本町6丁目
- 24日(金)日本平和大会オプショナル企画
- 25日(土)~26日(日)日本平和大会 in 愛知

